

### 第3回総合部会 主要意見

日時：H20.12.22(月)14:00－17:00

場所：県庁6階第2会議室

#### 1. 沖縄が守るべきもの、譲れないものについて

○譲れないものは何か？それは、どの国、地域にもある。沖縄は、平和、命どう宝、ホスピタリティ等があげられる。

→沖縄はアジアを含めた視点から考えるべき。グローバル化は避けられないが、沖縄は無防備である。こちらで譲れないものをちきんと持っておくべき。

○何を残すかをビジョンの中でうたないといけない。どういう人材が来て欲しいか、外にもメッセージをださないといけない。

#### 2. 沖縄の地政学的な位置づけ、優位性等について

○グローバル化が進むなか、アジアの中の沖縄の立ち位置を考える必要がある。地政学的なビジョンを持つとともに、沖縄がいかにしたたかに戦略をもって生きていくかが、大切。

○沖縄は、世界一の健康長寿、安全安心、快適環境、生活、文化など人を引きつける魅力があり、日本経済におけるこれら沖縄のソフトパワーの潜在能力が注目されている。

○沖縄は、国際貢献、国際協力の分野で国際センター的な機能を担う等、日本本土とアジアの結び目となって一定の役割を果たせる位置にある。

○日本全国の中で、沖縄はとても恵まれている地域だと思う。沖縄と関わりたい人は多く、だれもがうらやんでいる県である。東南アジアの留学生、ETA研修生では、沖縄を希望する人が多い。

→何に惹かれてくるのか、科学的に分析していきたいと思う。

今持っているポテンシャルをもっと確たる形で把握していくことがビジョンである

○東京のような競争主義がいいという考え方は、最近、発想の転換で見直されてきている。今まで沖縄は、経済的にネガティブにみられていたが、ソフトパワーが見直されてきている。

○アジアとか様々な選択がある中で、東京の後追い、東京に基準を合わせるのではなく、沖縄独自の基準を持っていた方がいい。

○島だからできる、様々なモデルケースをつくっていく必要がある。

### 3. 国際拠点としての沖縄の機能について

○今後の沖縄を考えると、これまでの格差是正という公共投資ではなく、新しい公共プロジェクトの切り口として、国際貢献がある。アジア共通のニーズ、日本としても国益上必要という判断のなか、沖縄だからこそ担えることがあるはずだ。

○沖縄ができることを考えてみると、ジャンルとして、環境、健康、防災、防疫、人間の安全保障、海洋安全・管理、平和利用など、沖縄ならではの分野がたくさんある。想定されている基地返還跡地の中で、具体策を描くことができる。

○公共投資とはいえ、国際貢献・協力はビジネスフィールドができているので、経済において、沖縄の新しい産業部門になりうると思う。軍事ではない国際公共財として意味がある。

### 4. 都市計画について

○沖縄は、横浜市に次いで2位の人口密度であり、全島都市化している。今まで都市計画はトップダウンできていたが、快適さという視点から、ビジョンの中で、沖縄県が、住民とともに都市計画を考え直さなければいけない。

○都市づくり、特に基地の跡利用について、時間がかかっても価値が劣化しない都市をつくるべきである。景観10年、風景100年、風土1000年を念頭においた都市づくりを考えていくビジョンの重要な視点である。

### 5. 人口減少、少子高齢化について

○人口減少、少子高齢化は経済を予測する上で、重要なことである。

東京の人口吸収力は、もっと大きくなり、沖縄は吸収されていくことも考えられる。人口減少局面で、どういう発想で沖縄を経営していくか、創造的

縮小をどういう価値観で構築していくかを議論する必要がある。

- 人口集中は、ヨーロッパの事例もあるが、一極集中は続き、この傾向は強まると思う。人口密度を減らしながら、どう対応したらいいのか、議論する必要がある。
- アジアから人をいれて、人口減少を止めることもできるのではないか。その際、沖縄にそのキャパがあるか、どのくらいが適当かを議論すべき。  
ビジョンの理念をどうするかによって、少子高齢化など、それぞれの課題が動いていくと思う。  
→今まで右肩上がりできていた社会が、減少になったときどういう現象になるかが問題。
- 人口を規定する要件として、環境があげられると思うが、人口の増減に影響をうけにくい地域をつくっていくことを考えることが重要。
- アジアの経済発展に沖縄がどう貢献していくのかを含め、交流人口を増大させることを考える必要がある。

## 6. 人材育成について

- 30年後の中小企業の経営環境を考えたとき、人材が最も大事である。企業が育つということは、人材が育つということであり、その地域が発展すること、その家族がゆたかになることである。そういったことを共有できるリーダーが多くなってほしい。そのためには、社会人の人材育成も大切だが、キャリア教育も必要だと思う。子供から一貫したキャリア教育を島だからこそ、モデルケースとしてやっていけるといいと思う。
- 人材と教育について、台湾に近い与那国で、与那国版フルブライトのような台湾進学という選択があってもいいのではないかと考えている。中国語が話せる人材を育成し、国境地域でビジネス面で活躍する、又はアジア友好等に寄与する人材を育成できるというビジョンが描けるよう、構造改革特区を考えてる。現に、台湾と国交はないが、与那国は、自治体外交している。教育と国境の立地特性を考えるなかで、人材育成で、道は開けると考えている。

## 7. ネットワークについて

- 公共交通、人的交流など、ネットワークは、ビジョンでも強調すべきである。

沖縄は閉鎖的社会であり、もっと人との繋がり等を意識してネットワーク構築していくべきだ。

○沖縄は昔から、中国など外とのネットワークをうまく活用し、したたかに生きてきたが、現在は、うまく活かされていない。台湾では、パスツール研究所があるなど、人材育成を通じて、ネットワークをうまく活用している。沖縄ももっと、外の資源を活用する必要がある。

## 8. その他

○分権・道州制は、どのようにビジョンに反映させるのか？財政構造の課題とビジョンとの関係についてお聞きしたい。

→分権と道州制は、現状認識として提示しているもの。財政構造をビジョンの中で議論することは、考えていない。現在、財政依存度が高いが、ビジョンの中で1つの現状として認識して頂いて、経済的自立、精神的自立に結びつけて欲しいと考えている。

→過去の踏襲では見通すことはできない。財政の予測は、不可能に近いと思う。

○沖縄は、現在でも、ハワイ大学との提携でインターシップを受け入れていたり、パイオディフェンスを他大学等と調査している。また、ソーシャルベンチャーがでているが、沖縄の癒しやゆいまーる精神など要素としては充分なので、ソーシャルビジネスを担っていける。

○医療、パイオディフェンスなど様々な分野の可能性はあるが、すべての研究に残渣がでる。環境に負荷をかけないような、地域で適切に処理できる事業システムを構築すべきであり、日本のモデルとしてでもあり方を検討していくべきだ。

○キットザワールドなどを沖縄で誘致してはどうか。